

# 教育活動の改善に活かす学校評価

札幌市立厚別南中学校

## I はじめに

学校評価システムの  
効果的な位置付け



### 1 本校における学校評価のねらい

本校は、今年度、開校20周年という節目の年を迎え、24学級、生徒数841名、教職員50名という市内最大規模の中学校としてスタートした。

本校は保護者や生徒のアンケートを実施してから3年目になるが、我々の教育活動を謙虚に振り返り、その教育活動をさらに改善させるよう、PDCAのサイクルを意識し、学校評価システムを効果的に位置付けるよう取り組んできた。

### 2 昨年度の学校評価をもとにした改善点

本校は、平成17年度に初めて保護者と生徒を対象とした学校生活に関するアンケートを実施した。昨年度はそれに加え、生徒による授業評価アンケートを前期末と後期末に実施し、さらに授業参観・学校祭・合唱コンクールの時に来校者アンケートを実施して、場面に応じた評価の充実を図った。しかし、アンケートの機会が増えて、その集計作業の負担が大きくなった。生徒数の多い本校では、集計作業の効率化が急務であったため、今年度はアンケートにマークシート方式を導入した。

また、昨年度は学校評価の業務が教務主任一人に集中していたが、教務主任、生徒指導部長、研究部長に業務を分担し、時間割のコマに三者のプロジェクト会議の時間を設定して、綿密に連絡調整ができる体制を作った。

さらに、今年度の教育活動の目指すものや学校評価からの改善策等を直接保護者に説明して、学校への理解と協力を得るために5月に学校経営説明会を実施した。

## II 本校の学校評価システム

学校評価をプロジェ  
クト・チーム化

### 1 学校評価委員会と自己評価

本校では、教育課程編成委員会が学校評価委員会の機能を兼ねている。上述の通り教務主任、生徒指導部長、研究部長の3名がプロジェクト・チームを組み、学校評価にかかわる業務（自己評価書の作成を含む）を担当し、教育課程編成委員会を経て職員会議に提案している。

### 2 学校関係者評価委員会

本校では、校区に居住する大学教員（地域の体育振興会会長）、住職（保護司）、公認会計士（同窓会長）の3名に学校評議員を委嘱しているが、学校関係者評価委員会の役割も担っている。昨年度初めて自己評価書を作成し、外部評価をお願いした。3名の方は多忙なため委員会の見解ではなく、3名の評価を並記する外部評価書を作成した。今年度も昨年度と同様の外部評価書の様式を踏襲することにした。

### Ⅲ 学校評価の年間の流れ

	自 己 評 価				学校関係者評価
	学校（教職員）	生徒	保護者	地域	
4	年間推進計画の立案				
5	学校経営説明会（5/7） 今年度の学校評価の概要の確認 来校者アンケートの内容確認				
6	授業公開（6/27）		来校者アンケート	来校者アンケート	
7	学校生活、授業評価アンケートの評価項目の確認				
8					
9	学校生活アンケート 授業評価アンケート① 学校祭（9/27～28）	学校生活アンケート 授業評価アンケート①	来校者アンケート	来校者アンケート	
10	開校20周年記念式典・合唱コンクール（10/31）		来校者アンケート	来校者アンケート	
11	学校生活アンケート 教職員反省アンケートの項目確認 教職員反省アンケート		学校生活アンケート		
12	各種アンケート集計結果の確認及び公表 次年度教育課程の検討		各種アンケート結果の公表（HP上）	各種アンケート結果の公表（HP上）	各種アンケート結果の公表（HP上）
1	年度末反省職員会議				
2	年度末反省職員会議 授業評価アンケート② 新入生保護者説明会 新入生説明会	授業評価アンケート②	新入生保護者説明会		
3	学校評議員会 自己評価書・学校関係者評価書の公表		自己評価書・学校関係評価者	自己評価書・学校関係者評価書の公表（HP上）	学校評議員会

## IV 学校評価の方法

### 1 自己評価

#### (1) 項目の設定

現在本校で行っている自己評価アンケートのうち、教職員向けのアンケートは、従来の年度末反省の項目に、保護者との意識の相違を見るために保護者向けと同じ項目を加えて現在に至っている。

保護者と生徒向けのアンケートは平成17年度に初めて行ったが、その時の項目をベースに毎年見直しを加えている。今年度については「家庭学習の習慣に関する質問」を、学校の教育活動の評価項目として不自然であることと、PTAが行っているアンケートに同様の質問が含まれている等の理由から削除した。

今年度を実施したアンケートの質問項目は以下の通りである。

#### ◆来校者アンケート（6/27、9/27～28、10/31に実施）※6問

##### ①～④ 生徒向けの目標「厚南3+1」に関して

（元気な挨拶、きれいな校舎、響き渡る合唱+時間を守る）の達成度

##### ⑤ 今年度の総括目標「文化レベルの高い学校の創造」に関して

##### ⑥ 当日の生徒の学習（取組）状況について

#### ◆生徒向けの学校生活に関するアンケート（9/7に実施）※12問

##### ① 私は、学校に行くのが楽しい

##### ② 私は、学校の生活のきまりを守っている

##### ③ 私は、通知表の成績（評定）のつけ方を理解している

##### ④ 私は、学校生活の中で自分の将来や進路について考える機会がよくある

##### ⑤ 先生方は、私達の意見や考えをよく聞いてくれる

##### ⑥ 先生方は、学習や諸活動で自分が努力したことを認めてくれる

##### ⑦ 先生方は、分からないことや悩み等、相談に親身になって応じてくれる

##### ⑧ 学校行事は、みんなで参加できて楽しい

##### ⑨～⑫ 生徒向けの目標「厚南3+1」に関して

（元気な挨拶、きれいな校舎、響き渡る合唱+時間を守る）の達成度

#### ◆生徒による授業に関するアンケート（9月と2月に実施）※全教科3問

##### ① 授業の理解度について（重点目標「わかる喜びを与える授業の創造」）

##### ② 学ぶ喜びについて（重点目標「わかる喜びを与える授業の創造」）

##### ③ 評価の基準や方法の理解度について

#### ◆保護者向けの学校生活に関するアンケート（11月に実施）※9項目

##### ① 学校は、教育の方針や取組について分かりやすく伝えている

##### ② 学校は、保護者の期待に応えている

##### ③ 学校は、進路や職業について適切な指導を行ったり情報を提供している

##### ④ 学校だよりやホームページは、学校生活の様子がよく分かる

##### ⑤ 生徒への日常指導やきまりと心得は、その方針が理解できる

##### ⑥ 先生方は、分からないこと等、相談に親身に応じてくれる

##### ⑦ 先生方は、子どもが学習習慣を身につけるための指導をしている

##### ⑧ 先生方は、子どもの学力や学習の様子を適切に評価している

##### ⑨ お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしている

#### ◆教職員アンケート（12月に実施）※70問

##### ① 学校教育目標、基本方針、重点に関して（8問）

・学校教育目標・「厚南3+1」・家庭との信頼関係・相談活動・生徒指導

##### ② 教科指導に関して（4問）

・指導と評価の工夫・個に応じた指導の展開・年間指導計画

##### ③ 生徒指導に関して（6問）

・基本的生活指導・生徒指導体制・生徒指導への理解や協力

- ④ 教務部に関して（8問）
  - ・教育課程・諸会議の運営・評価評定への信頼・選択教科の運営・学校便やHPでの広報・時間割の編成・学籍事務・進路指導
- ⑤ 生徒指導部に関して（6問）
  - ・生活態度の育成・個を尊重した集団の育成・良好な人間関係づくり・きまりの遵守・問題行動への適切な指導・地域、関係機関、保護者との連携
- ⑥ 生徒会部に関して（4問）
  - ・目指す生徒の育成・委員会等の活動・集団作り・広報活動
- ⑦ 研究部に関して（8問）
  - ・研究の推進・教育活動への活用・総合の実践及び計画や内容・道徳の指導計画及び資料や内容・学活の指導計画及び配置
- ⑧ 保健体育部に関して（7問）
  - ・体育行事の企画運営・委員会活動・清潔な生活環境・清掃用具の配分と管理
  - ・生徒の健康状態の把握・健康指導・保健室の運営
- ⑨ 文化部に関して（4問）
  - ・文化的諸活動の活性化・図書室の運営・視聴覚機器の活用と管理・広報活動
- ⑩ 管理部に関して（7問）
  - ・施設の整備と管理・教材教具の点検や整備・故障や破損への対応・徴収金の集金事務や予算の立案と執行・事務処理・食の指導・給食の献立
- ⑪ 学校生活に関して（7問）
  - ・総括目標に関して・登校の楽しみ・評価の工夫・生徒指導の理解・家庭学習習慣の指導・進路に関する指導・学校便りやHPの内容・子どもの理解

(2) 生徒・保護者アンケートの実施

生徒向けの学校生活に関するアンケートと授業評価アンケートについては今年度からマークシート用紙を用いた。学校生活に関するアンケートには自由記述欄を設け、学活中に学級担任の指導で実施された。授業評価については9教科と選択教科の講座分を一面に印刷した。質問の項目は同一の3項目であるが、教科により質問の表現（分かる・できる）が微妙に違っており、授業中に教科担任が学習内容の確認等をしてから実施した。

保護者向けの学校生活に関するアンケートと来校者アンケートは従来通り普通紙に印刷し、自由記述欄を設けた。学校生活に関するアンケートは学級で配布及び回収し、来校者アンケートは玄関にアンケート用紙を置き、玄関の回収箱や後日学級で回収した。

(3) 結果の集計と分析

回収されたアンケート用紙はプロジェクトの3名が分担して集計した。昨年度はすべてのアンケートをパソコンに手動で入力していたが、マークシート用紙を用いたことで集計作業はかなり軽減された。アンケートは昨年度と同じ形式でグラフ化し、昨年度と比較しやすい形で集計した。自由記述欄は原文のままワープロ化し、アンケート結果の集計と供に冊子にして学校の年度末反省が始まる12月初めには全教職員に提示した。その後の教科部会、学年会、校務部会等でその内容を精査し分析が始まった。

(4) 改善策の検討

従来の年度末反省職員会議の反省・評価項目に、反省点や改善点を明記してきたが、学校評価システムにおける改善策を意識し、改善策を明確にするために従来の反省・評価項目に次の項目を追加した。

- ◆学校評価（生徒、保護者、教職員）の集約に対する回答や改善策等このことにより、教科部会、学年会、校務部会等では自己評価資料を精査し分析して、改善策を検討することになった。

## (5) 自己評価書の作成

昨年度は、教育課程・学習指導、生徒指導、進路指導、研修、保護者や地域住民との連携の5つの分野領域の6つの評価項目について自己評価書を作成した。それぞれの「達成状況」と「取組の適切さ」について「A：十分である」「B：概ね十分である」「C：不十分である」「D：改善を要する」で自己評価し、改善の方策を文書で記述した。

今年度も同じ様式を考えているが、年度末職員会議で今年度の反省や来年度の改善策が確認された後に、プロジェクト・チームが年度末反省を総括する形で自己評価書を作成することになっている。各部等から年度末反省で提起されなかった問題については、このプロジェクト・チームが検討して自己評価書を作成し、教育課程編成委員会を経て2月の職員会議に提案される予定である。

## 2 学校関係者評価

### (1) 学校関係者評価委員の構成と役割

本校では学校評価を始める前より、前述した学校評議員3名との連携を図っており、学校便りの送付だけでなく、様々な機会に来校していただき、学校の様子を見て理解していただけるよう努力してきた。このような流れで学校関係者評価委員を学校評議員3名にお願いしているが、新しく定義された学校関係者評価について、構成も含めて役割等について検討を進めていきたい。

### (2) 外部評価書の作成

昨年度は「自己評価書」の各評価項目に対して「自己評価の適切さ」と「改善に向けた取組の適切さ」を各学校評議員が「A：十分に適切」「B：ほぼ適切」「C：やや不適切」「D：不適切」で評価し、自己評価書に対する総合所見も記述していただいた。

今年度は3月に学校評議員会（学校関係者評価委員会）を設定しているが、3名の学校評議員が多忙であり、委員会としての開催や統一した見解を作成することが難しい場合には昨年と同じ様式を考えている。

## V 評価結果の公表

### 1 公表の方法

本校では、評価結果の公表をこれまで、以下の通り行ってきた。

- ・平成18年度「学校だより第22号」の配布（H18. 3. 15. 発行）  
生徒と保護者向けの学校生活に関するアンケートの集計結果のみ掲載
- ・平成18年度学校評価「自己評価資料①」の配布（H18. 11. 30. 発行）  
学校生活に関するアンケート（生徒・保護者）と来校者アンケートの集計結果
- ・平成18年度学校評価「自己評価資料②」の配布（H19. 2. 26. 発行）  
学校生活に関するアンケートに対して（回答及び改善策）、前期の授業評価アンケート集計結果（教科の見解を含む）、教職員反省アンケート集計結果、研究の反省と課題（研究部のまとめから）
- ・平成18年度学校評価「自己評価書」「外部評価書」の配布（H19. 3. 25. 発行）
- ・平成19年度学校評価「アンケート結果の公表について」の配布（H19. 12. 25. 発行）

今年度を実施した来校者アンケート、学校生活に関するアンケート（生徒・保護者）、生徒による授業（前期）に関するアンケートの各集計結果をHP上で公表することを通知。（希望者には印刷して配布）

- ・学校ホームページに掲載（これらの内容は現在も下記のURLで閲覧可能）  
<http://www.atsubetsuminami-j.sapporo-c.ed.jp/navigation/index.html>  
 今年度の学校評価に関する学校としての回答や改善策等については昨年度と同様に文書で配布する予定。（集計結果等については紙面の関係でHP上で公表）

## 2 公表の効果

本校では公表した内容に対して意見等を求める場面を設定していないので、評価結果の公表に関する直接的な効果は把握していない。しかし、保護者向けアンケートの「学校は、教育の方針や取組について分かりやすく伝えている」という質問項目に対して、肯定的な回答が平成18年度78%→平成19年度89%と上昇していることは一定の効果を生み出していると考えられる。

## VI 他地域における学校評価

### 1 東京都品川区立小中一貫校日野学園の学校評価



品川区では小学校が平成12年度、中学校が平成13年度より学校選択制を導入しており、少しでも学校の特色を出して学校を選んでもらうように、情報提供や学校公開を積極的に行うようになった。平成14年度からは外部評価者制度、平成15年度からは学力定着度調査を実施し、その結果はホームページ等でも公表された。公立学校では全国初の施設一体型小中一貫校として開校した平成18年度からは、新外部評価制度を導入し、教員の意識改革と学校教育の質的転換を目指すことに役立っている。

### 2 岐阜県本巣市立真正中学校の学校評価



学校評価の取組は、中学校の開校時より繋がり深い弾正小学校と真桑小学校と連携している。中学校区である真正地域3校の協力校会議で保護者アンケート等の評価項目や質問内容を統一しており、保護者は同じ視線で小学校と中学校の教育活動を評価できるように工夫している。学校評議員、PTA役員、地域住民、大学の研究者、他校の教職員等15名で構成される外部評価委員会が、3校の取組を評価・助言・援助する制度は、地域密着型の小中一貫の学校評価システムであり、大変参考になった。

## VII 成果と課題

本校は学校評価を導入して3年、研究校として取り組んでから2年が経過する。これまでの取組で以下のような成果と課題を得た。

一点目の成果は教職員の意識の変化である。学校評価が始まった頃は一方的な教員評価を心配してか、学校評価を後ろ向きにとらえている教職員もいたが、PDCAのサイクルを繰り返すことで、自分たちの実践が良い方向に評価され、教育活動が改善していく様子を実感し、評価結果のとらえ方も前向きに変化してきた。

二点目の成果としては、保護者の学校評価に対する意識の変化である。アンケートの回収率は平成17年度66%→平成18年度77%→平成19年度82%と着実に上昇している。学校評価ガイドラインでは多くの評価項目が示されているが、保護者が答えやすく、改善への指標としやすい項目を精選することで、実効性のあるアンケートを実施してきた効果がある程度現れたと考える。

今後の課題は、学校と保護者や地域の教育課題の共有化である。これは究極の課題と思われるが、保護者向けのアンケートを保護者の立場で企画し、学校と協議する等の取組を通して、新たな一步を踏み出したいと考える。

【参 考 文 献】 ・「小中一貫の学校づくり」 品川区立小中一貫校日野学園 著 教育出版 発行

【資料】

平成18年度 学校評価

「自己評価書」「外部評価書」

札幌市立厚別南中学校

1 学校教育目標 「自らを切り拓く人間性豊かな生徒」

2 学校教育推進計画 ～学校経営の重点～

総括目標 **文化レベルの高い学校の創造**  
 ① わかる喜びを与える授業の創造  
 ② 豊かな人間性を育む  
 ③ 信頼される学校の創造



**厚南3+1** (挨拶、合唱、校舎+時間)  
 ・「元気な挨拶」  
 ・「響き渡る合唱」  
 ・「きれいな校舎」  
 ・「時間を守る」

3名の学校評議員の評価をそれぞれ記入

3 自己評価結果 (A:十分である B:概ね十分である C:不十分である D:改善を要する)

外部評価結果 (A:十分に適切 B:ほぼ適切 C:やや不適切 D:不適切)

自 己 評 価 結 果					外 部 評 価 結 果	
分野領域	評価項目	達成状況	取組の適切さ	改善の方策	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
教育課程 学習指導	生徒による授業評価の結果	A	A	今年度初めての授業評価であったが、全教科共通の3項目で前・後期に実施できた。生徒の自己評価を授業改善への指標として受け止め、後期の授業に反映することができた。授業評価の項目や実施時期等についてはさらに検討していきたい。	AAA	AAA
	個に応じた指導の充実状況	B	A	選択教科では、同一時間に講座を10～11開設し、同一教科で複数の講座を開設する場合には基礎講座を開設するようにしてきたが、次年度もこの体制を維持していきたい。 また、今年度は1年の数学と3年の音楽でTT(ティームティーチング)に取り組んだが、来年度は美術と英語でもTTに取り組みたい。	AAA	AAA
生徒指導	教育相談の状況	B	B	11月から6回教育相談を実施した。大きな行事が終了した時期であり、後半の学校生活に生かすことを目指した。 来年度は、家庭訪問の廃止に伴い、全学級とも学期末懇談を予定しており、生徒理解を深めるために、より充実した相談活動を推進したい。	BAB	AAA
進路指導	進路情報の提供	B	A	3年生向けは、進路だよりと3学年だよりの連携で十分に啓発できたと考える。 1・2年生の生徒や保護者向けの啓発については、学活、道徳等や学年懇談会等の内容を工夫したい。	BAA	AAA
研 修	校内研修の実施状況	B	B	今年度は全教科で校内研究授業を実施し、研究主題に迫ることができた。 来年度は研究のまとめの年でもあり、各教科で明らかになった成果と課題を下に3年間の研究の深まりを検証できる各教科の研究授業を実施したい。	BAA	AAA
保護者、地域住民との連携	保護者、地域住民に対するアンケートの結果	B	A	今年度は地域の方々も来校する行事(学校祭、合唱コンクール)で来校者アンケートを実施した。実際に生徒や学校の様子を見て頂いた評価であり、実態を捉えた貴重な資料となった。 来年度は学校評価の趣旨をさらに理解して頂き、評価場面や評価項目等に工夫をしていきたい。	BAA	AAB

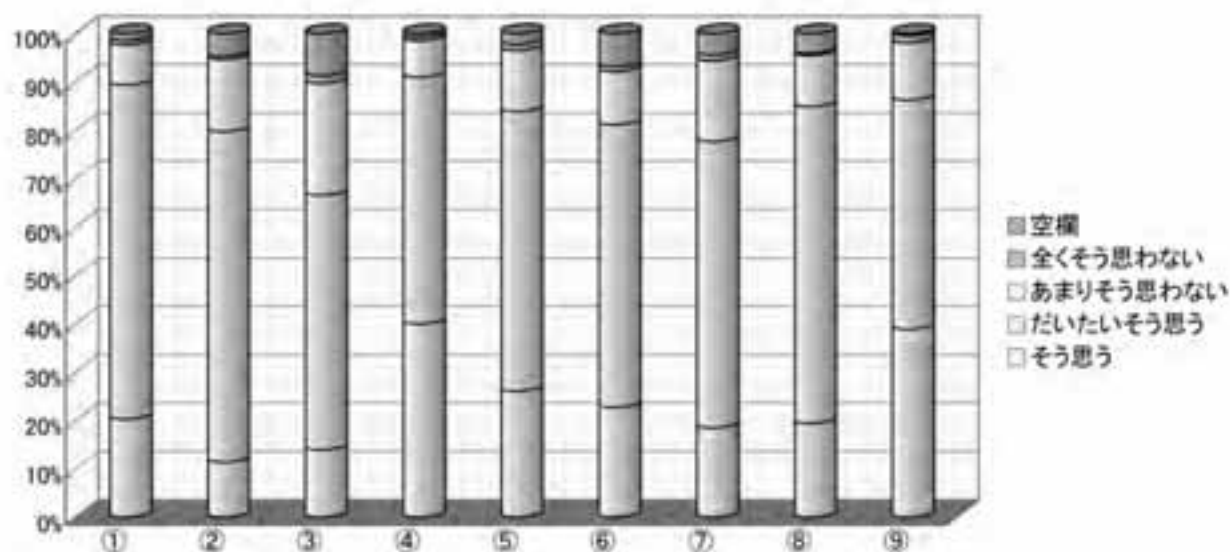
平成19年度  
学校評価

学校生活に関する保護者向けアンケート

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
全校 合計	そう思う	140	79	96	276	180	157	128	134	269
	だいたいそう思う	478	472	364	353	400	404	409	453	327
	あまりそう思わない	57	103	160	52	87	76	115	73	82
	全くそう思わない	7	5	11	5	9	7	9	3	10
	空欄	9	32	60	5	15	47	30	28	3
	合計	691	691	691	691	691	691	691	691	691

在籍 842 提出率 82% (昨年度は77%)

全校保護者集計



- ① 学校は、教育の方針や取組について分かりやすく伝えている
- ② 学校は、保護者の期待に応えている
- ③ 学校は、進路や職業について、適切な指導を行ったり、情報を提供している
- ④ 学校だよりやホームページは、学校生活の様子がよく分かる
- ⑤ 生徒への日常指導やきまりと心得は、その方針が理解できる
- ⑥ 先生方は、分からないこと等、相談に親身に応じてくれる
- ⑦ 先生方は、子どもが学習習慣を身につけるための指導をしている
- ⑧ 先生方は、子どもの学力や学習の様子を適切に評価している
- ⑨ お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしている